

アルミ輸入は新地金を除き増加

アルミ圧延品、二次合金地金ともに生産増加

橋本健一郎氏リポート②



橋本健一郎氏

■国際概況
四月前半は、米当局が米ジョンソン・エンド・ジョンソン（J&J）製の新型コロナウイルスの新型ワクチン

の接種を中断するよう勧告したこと、中国の首相が国際商品が高騰する中、企業へのコスト圧力を懸念しならかの規制を設けるとの考えを示したなどのマイナス材料もあったが、五日発表の米ISM非製造業景況指数も大幅に伸びたこと、米長期金利の低下や米連邦準備理事会（FRB）による金融緩和の長期化観測からLMEアルミ相場はUP、四月初旬時点から二九七ドル（セツル）と月初価格から八五ドルUPの前半締めとなった。

後半は、バイデン政権が所得税の最高税率を現行の三七％から二九・六％に引き上げるのに合わせ、キャピタルゲインの税率も同じ水準にする。現行の二〇％からほぼ二倍になる見通し。などのマイナス材料もあったが、第1四半期の中国GDPが前年同期比一八・三％増加と過去最高の伸びとなりスク選好の動きとなったことを好感しLMEアルミ相場はUP、三月末日現在、後半スタート価格から一〇四ドルUPの二、四三二ドル。

■前月の経済指標

■前月のドル/円レート (TTS)
一一・八四→一〇八・八九 (円)。

◆自動車生産台数

生産動態統計によると、三月の自動車生産台数は前年比四・五％増の八二万六、九二八台。輸出は三・四％増。

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、四月の自動車販売台数（軽除く）は前年比二二・二％増の二一萬〇、三三三台。

◆新設住宅着工件数

三月の新設住宅着工は、持家、貸家及び分譲住宅が増加したため、全体で前年同月比一・五％の増加となった。また、季節調整年率換算値では前月比九・〇％の増加となった。

新設住宅着工戸数は七一、七八七戸で前年同月比一・五％増と、二二カ月前の増加。新設住宅着工床面積は五、八三八千㎡で前年同月比〇・二％減と、二カ月前連続の減少。季節調整年率換算値では八八〇千戸で前月比九・〇％増と、三カ月前連続の増加。

◆貿易関連指標

輸出
財務省貿易統計によれば、輸出はアルミ新地金が前年比一一・〇％増の一六九t、二次合金が五・五％増の二、五七〇t、スクラップが九五・二％増の三万四、〇六九t、アルミ缶が二五・七％増の九、九八九t。

輸入

輸入は新地金が前年比二・八％減の二二万〇、一六九t、二次合金が一八・一％増の二〇万二、一七〇t、スクラップが〇・四％増の四九六t、合金スクラップは四九・一％増の五七一一t。

■前月の国内指標

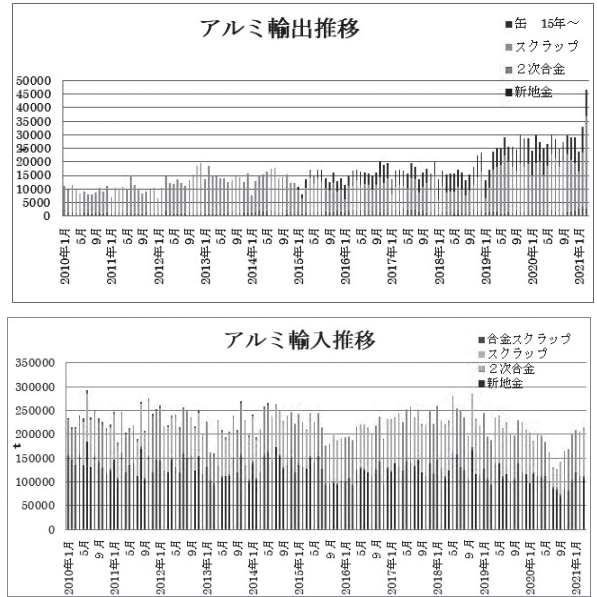
日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比七・一％増の二六万九、八四八tと三カ月前連続プラス。アルミニウム二次合金・同合金地金等実績によると、生産は前年比七・五％増の七万二、三一七tと五カ月前連続プラス、出荷は一〇・五％増の七万四、七四六tと五カ月前連続プラス。

■自動車生産

生産動態統計によると、三月の自動車生産台数は前年比四・五％増の八二万六、九二八台。輸出は三・四％増。

■自動車販売

日本自動車販売協会連合会によると、四月の自動車販売台数（軽除く）は前年比二二・二％増の二一萬〇、三三三台。うち乗用車二六・三％増、貨物一・七％増、バス四二％減。（六面へ続く）



アルミスクラップ、先高感などから発生少ない

(四面より続く)

【住宅着工戸数】

三月の新設住宅着工は、持家、貸家及び分譲住宅が増加したため、全体で前年同月比一・五%の増加となった。また、季節調整済年率換算値では前月比九・〇%の増加となった。

【アルミ圧延・押出品生産数量】

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比七・一%増の二六万九、八四八tと三カ月連続プラス。このうち、板類は一〇万五、八一三tで八・九%増と三カ月連続プラス、押出類は六万四、〇三五tで四・二%増と二八カ月ぶりプラス。【アルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績】

生産は前年比七・五%増の七万二、三二七tと五カ月連続プラス、出荷は一〇・五%増の七万四、七四六tと五カ月連続プラス。

【輸出】

アルミ新地金が前年比二一・〇・六%増の二六九t、二次合金が五・五%増の二、五七〇t、スクラップが九五・二%増の三万四、〇六九t、アルミ缶が二五・七%増の九、九八九t。

【輸入】

アルミ新地金が前年比二・八%減の二二万〇、一六九t、二次合金が一八・二%増の二〇万二、一七〇t、スクラップが〇・四%増の四九六t、合金スクラップが四九・一%増の五、七一一t。

【見通し】

三月の自動車生産が四・五%増。四月国内販売台数が前年比二二・二%増。生産微増は半導体不足によるものと認識。販売は大幅増。

今後生産の動向が販売数量に響くか注視。

・日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比七・一%増の二六万九、八四八tと三カ月連続プラス。

今後プラスが続くかの動向に注視。

・アルミニウム二次合金・同合金地金等実績によると、生産は前年比七・五%増の七万二、三二七tと五カ月連続プラス、出荷は一〇・五%増と七万四、七四六tと五カ月連続プラス。

・アルミ輸出は相場の急騰や外需が比較的好調なことを受けて大幅増。

過去一〇年で最大の輸出量！

・アルミ輸入は国内自動車販売の好調から合金地金、スクラップが大幅増。

【スクラップ景況予想】

流通在庫は、LME価格が二、四〇〇ドル

で高止まりしているが、先高感や半導体不足により発生は少ない。

需要面に関しては、意外にも販売が堅調な事による材料不足や国際相場の高騰からの輸入玉の不足から、メーカー在庫は希薄。

【LME・為替予想】

今月は①米経済、景気対策と②中国の景気動向に左右される。

①に関しては

四月二十八日のFOMC声明で雇用の最大化と長期的な二%のインフレ達成を目指し、それを達成するまで金融緩和スタンスを維持すると発表した事、バイデン大統領は七月の独立記念日までに一億回近くのワクチン接種を提供するという新たな目標を発表したことから、米景気は回復傾向が続くのではないか。

②に関しては

二〇二一年一〜三月期の中国の経済成長率が一八・三%と、四半期の数値公表が始まった一九九二年以降で最高を記録したことから順調に回復するのではないかと？

これらを踏まえた五月のアルミ価格は、二、四〇〇〜二、六〇〇ドル(セツル)との予想。ドル円値は一〇七円〜一一〇円(TTM)台を予測。

スクラップ購買価格に関しては、据え置きから一〇〜一五円高程度と予測している。

ドル・円(終値ベース)

